

2. 全数把握対象感染症患者報告状況

(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

	疾 患 名	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
二 類	結核	198	188	291	241	161
三 類	コレラ			1		
	細菌性赤痢		1		1	1
	腸管出血性大腸菌感染症	18	27	14	7	5
四 類	E型肝炎			1		
	A型肝炎	1	4			
	オウム病				1	
	重症熱性血小板減少症候群 ¹⁾					2
	チクングニア熱 ²⁾					1
	つつが虫病	3	1		1	1
	デング熱		2	1	1	
	日本紅斑熱	3	5	10	1	2
	日本脳炎					1
	マラリア	1		1		
	類鼻疽					1
	レジオネラ症		2	2	3	3
五 類	アメーバ赤痢	5	3	3	2	4
	ウイルス性肝炎(E型、A型を除く)			1		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1	4	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		3		2	1
	後天性免疫不全症候群	4	9	6	4	4
	ジアルジア症		1		1	
	侵襲性肺炎球菌感染症 ¹⁾					4
	梅毒	2	3	1	2	2
	破傷風	1	5	1	3	4
	風しん					30
	麻しん	2		1		

¹⁾ 平成 25 年より全数把握対象感染症に指定された。

²⁾ 平成 23 年より全数把握対象感染症に指定された。

(2) 各疾病の届出状況

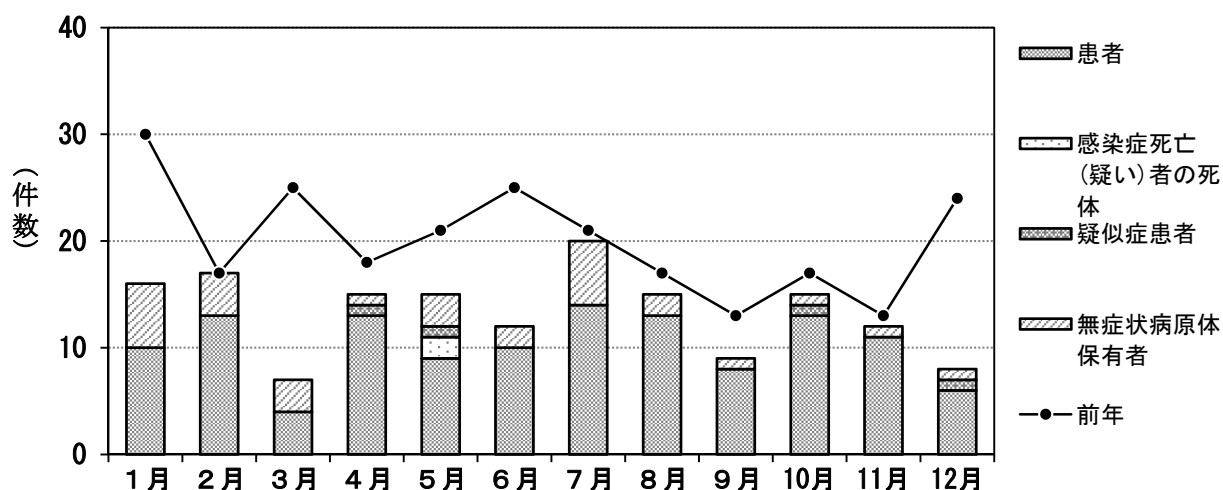
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

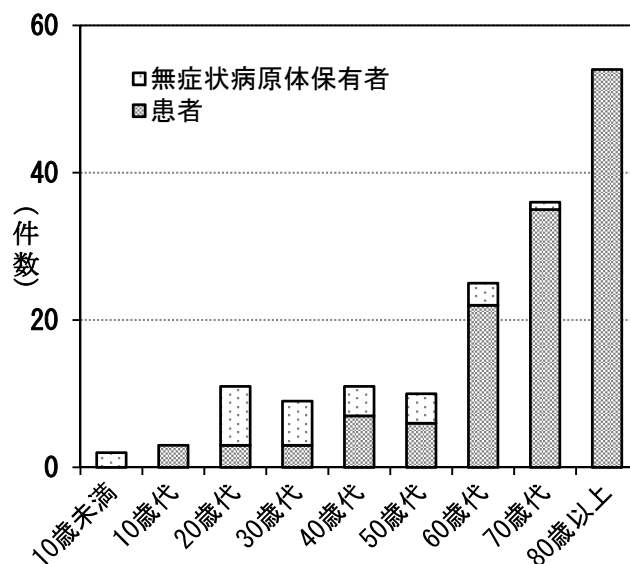
結核の月別届出数



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	0	2	2
10歳代	1	2	3
20歳代	5	6	11
30歳代	1	8	9
40歳代	6	5	11
50歳代	5	5	10
60歳代	19	6	25
70歳代	20	16	36
80歳以上	23	31	54
計	80	81	161

【年齢・症状別届出数】



平成25年は161件と前年(241件)より大きく減少し、過去5年間で最も多かった平成23年(291件)に比べ約半数の届出数であった。月別の届出数は7~20件で推移し、季節的な特徴は見られなかった。

症状別では、「患者」が126件(内訳:肺結核85件、その他の結核34件、肺結核およびその他の結核7件)(死亡(疑い)例も含む)と最も多く、「疑似症患者」4件、「無症状病原体保有者」31件であった。

年齢別では、60歳未満では各年齢層とも10件前後の届出数であったが、60歳を越え年齢が高くなるにつれ大きく増加し、全体の約71%を占めた。性別での差はほとんど見られず、男性80件、女性81件

とほぼ同数の届出数であった。

年齢と症状を比較すると、60歳以上では「患者」が約91%と大部分を占めたのに対し、60歳未満では「患者」が48%と「無症状病原体保有者」の割合（52%）が高かった。また「無症状病原体保有者」の職業別では医療・介護など集団生活を送る施設関係者が約42%を占めており、施設関係者の感染予防啓発、施設における感染対策の徹底が重要と考えられた。

《三類感染症》

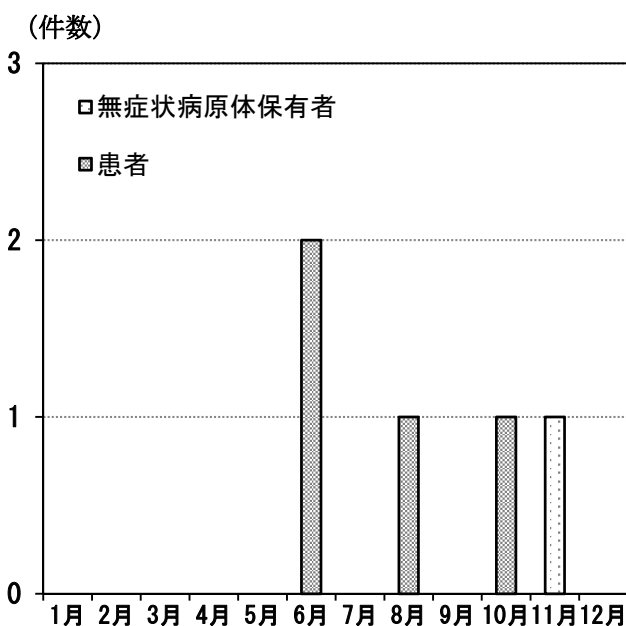
② 細菌性赤痢

細菌性赤痢は10月に1件届出があった。検出された菌は *Shigella sonnei* で、インドネシアへの旅行中に感染したと推定された。

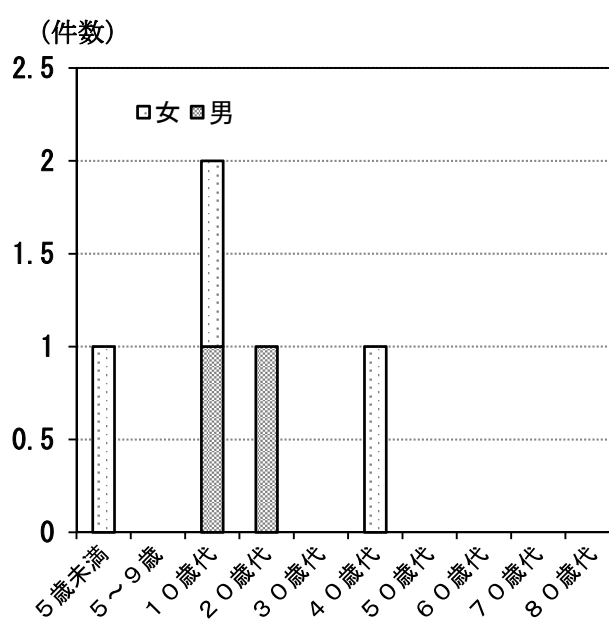
診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	40歳代	下痢、腹痛、しぶり腹、粘血便	経口感染	インドネシア

③ 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の月別届出数



【年齢・症状別】



診断月	性別	年齢	症 状	型別	推定感染地域
6月	女	10歳代	腹痛、水様性下痢	026 (VT1)	国内
6月	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便	0121 (VT2)	国内
8月	男	10歳代	腹痛、血便、発熱	0157 (VT1VT2)	国内
10月	女	5歳未満	水溶性下痢、嘔吐、発熱	0157 (VT1VT2)	国内
11月	女	40歳代	無症状病原体保有者	091 (VT1)	国内

腸管出血性大腸菌感染症は、平成 23 年以前の 5 年間に於いて年間 13～27 件報告されていたが、平成 24 年は 7 件、平成 25 年は 5 件と 2 年続けての少ない届出数となった。これは厚生労働省による生食用食肉の規格基準改正(平成 23 年 10 月より)と生食用牛生レバーの提供禁止(平成 24 年 7 月より)により生肉・生レバーの喫食が原因となる事例が減少したためと推察される。

月別の届出数は例年同様の傾向を示し、6 月～11 月の夏季を中心に届出が多く、冬季には見られなかった。診断の類型は「患者」が 4 件、「無症状病原体保有者」1 件であり、年齢別では、「患者」はすべて 20 歳以下の若年者であり、「無症状病原体保有者」は 40 歳代であった。症状は、腹痛、水溶性下痢、血便、発熱、嘔吐等であり、重症の合併症である溶血性尿毒症症候群(HUS)は報告されなかった。血清型別では、本疾患の多くを占める O157 や O26 の他に O91、O121 などの血清型が報告された。

報告例の感染経路や感染源は、潜伏期間が 2～14 日と比較的長いこともあり、原因の特定には至らなかったが、全て国内にて感染したと推定されている。

《四類感染症》

④ 重症熱性血小板減少症候群

重症熱性血小板減少症候群は、平成 25 年 1 月国内で初めての感染例が報告され、平成 25 年 3 月 4 日より 4 類全数把握対象感染症に指定された。

平成 25 年は 2 件、5 月と 9 月に 1 件ずつ届出られ、感染経路はいずれも自宅付近において畑作業中、マダニ等に刺咬され感染したと推定された。徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、原因微生物を保有するダニや昆虫の刺咬による感染症が、毎年のように報告されている。登山、森林作業、農作業など野外作業機会の多い中高年者を中心に、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	男	70 歳代	発熱、頭痛、腹痛、下痢、嘔吐、 全身倦怠感、血小板減少	マダニ等からの感染	国内
9 月	女	80 歳代	発熱、食欲不振、全身倦怠感、 血小板減少	マダニ等からの感染	国内

⑤ チクングニア熱

本県で初めて 1 件の届出があった。患者は 40 歳代の男性で、県内に在住の外国人であり、フィリピンへの里帰り中に感染したものと推定された。本県ではチクングニア熱、デング熱などいわゆる蚊媒介性感染症が、毎年のように報告されるようになった。それらの原因ウイルスは、現在、国内に常在しておらず、いずれも海外流行地での感染と推定されている。今後、感染者の増加により国内常在し、大規模な集団発生を引き起こす危険性もあるため、海外流行地への渡航時には蚊に刺されないよう注意喚起、発生した場合に備え防疫体制の確立が必要と思われる。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11 月	男	40 歳代	関節痛	蚊等からの感染	フィリピン

⑥ つつが虫病

つつが虫病は、1件届出られた。過去5年間では0～3件の届出数で推移している。報告月は発生報告の多い秋～春先にあたる12月で推定感染地は県内であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
12月	男	60歳代	発熱、発疹	ツツガムシ等からの感染	国内

⑦ 日本紅斑熱

日本紅斑熱は23年まで増加傾向にあったが、今年は2件と昨年(1件)同様報告数は少なかった。届出月は、例年報告の多い春から秋にあたる7月と10月、年齢層は70歳代であった。また本疾患の多くが、畑や森林での野外作業中での感染が報告されているが、10月に届けられた1名は、患者が飼育していた猫に付着していたダニによる刺咬と推察された。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10月	女	70歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、嘔吐、DIC	マダニ等からの感染	国内

⑧ 日本脳炎

日本脳炎は、10月に1件届出があった。県内においては14年ぶりの患者発生となるが、西日本では毎年のように報告されている。本疾患は、発症すれば重症化や重い後遺症が残る場合もあり、媒介蚊が多く発生する夏場シーズン前に、ワクチン接種を中心とした予防が重要と思われる。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	女	70歳代	発熱、嘔吐、意識障害、脳神経麻痺、不随意運動	蚊等からの感染	国内

⑨ 類鼻疽

10月に1件の届出があった。本疾患は、東南アジア、北部オーストラリアに発生する風土病であり、わが国での国内感染例は認められていない。患者もタイ、マレーシア、シンガポールへの渡航時に感染した輸入感染例と推定された。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	60歳代	敗血症	塵埃感染	タイ、マレーシア、シンガポール

⑩ レジオネラ症

レジオネラ症は毎年 2～3 件の報告数で推移し、本年も 3 件届出られた。病型はいずれも「肺炎型」で、推定される感染地域は県内、感染経路は水系感染が 1 例、不明 2 例であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	男	60 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎、多臓器不全	水系感染	国内
9 月	男	80 歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
12 月	男	80 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内

《五類感染症》

⑪ アメーバ赤痢

徳島県においてアメーバ赤痢は毎年 2～5 件報告され、平成 25 年も 4 件の届出があった。性別はいずれも男性、年齢は 40～70 歳代、推定感染地域は国内が多いが、うち 1 名はベトナム、カンボジアへの渡航中に感染したと推定された。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	男	40 歳代	下痢、粘血便、大腸粘膜異常所見	不明	国内
6 月	男	60 歳代	発熱、右季肋部痛、肝膿瘍	不明	国内
8 月	男	70 歳代	粘血便	経口感染	ベトナム カンボジア
9 月	男	40 歳代	下痢、粘血便、腹痛	不明	国内

⑫ ウイルス性肝炎（E 型、A 型をの除く）

ウイルス性肝炎は、6 月に 1 件届け出られた。年齢は 30 歳代で、病型は「B 型肝炎」であり、感染経路は「性的接触」と推定された。過去 5 年間では、平成 23 年に 1 件「C 型肝炎」の届出があった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	女	30 歳代	肝機能異常	性的接触	国内

⑬ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 1 件の届出があり、年齢層は 70 代で、壊死軟部組織より G 群溶血性レンサ球菌が分離されている。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
9 月	女	70 代	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎	局所感染	国内

⑭ 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は前年と同じく 4 件の届出があり、過去 5 年間では毎年 4～9 件報告されている。年齢は 30～50 代、性別は男性 3 名、女性 1 名、病型は「患者」2 件、「無症候性キャリア」2 件であった。推定感染経路は、不明 1 件を除き同性または異性間の性的接触で、感染地域は、1 件はタイ、3 件は国内にて感染したと推定された。

現在、保健所等を中心に利用者の利便性に配慮した無料検査・相談体制の構築が進められている。本年報告された 4 件のうち 1 件も県内保健所で実施された無料検査にて発見されたものであった。今後もハイリスク層や検査を受けていない 20～40 代を中心とした幅広い年齢層に対し、より積極的な普及啓発を推進し、HIV 感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努めることが重要である。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	女	40 歳代	呼吸困難、咳、リンパ性間質性肺炎	不明	タイ
6 月	男	40 歳代	呼吸困難、ニューモシスティス肺炎	異性間性的接触	国内
8 月	男	50 歳代	無症状病原体保有者	異性感性的接触	国内
12 月	男	30 歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内

⑮ 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は、平成 25 年 4 月 1 日より全数把握対象感染症に指定された。平成 25 年は、4 月から 5 月に 4 件報告され、すべて国内にて感染したと推定されている。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	男	60 歳代	発熱	不明	国内
5 月	女	80 歳代	発熱、意識障害、菌血症	不明	国内
5 月	男	5 歳未満	発熱、痙攣、菌血症	不明	国内
5 月	男	60 歳代	頭痛、発熱、全身倦怠感、菌血症	不明	国内

⑯ 梅毒

梅毒は 7～8 月に 2 件の届出があった。1 件は 30 歳代の男性で、病型は「早期顕症梅毒」Ⅰ期、感染経路は国内での性的接触と推定された。もう 1 件は「無症状病原体保有者」であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7 月	女	90 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
8 月	男	30 歳代	鼠径部リンパ節腫脹	同性間性的接触	国内

⑰ 破傷風

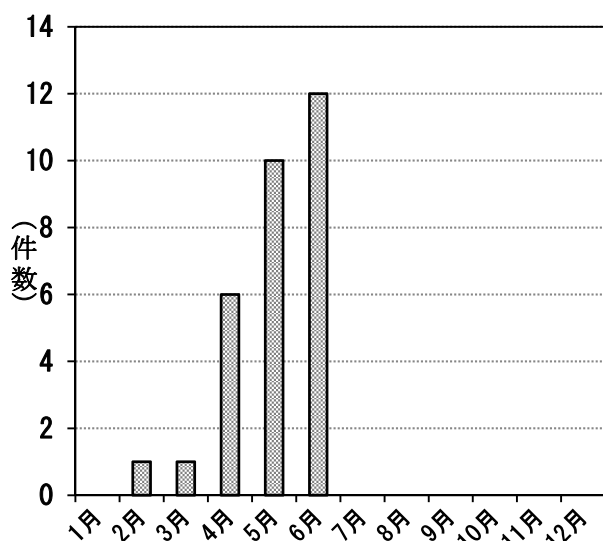
破傷風は4件の届出があった。年齢は70歳以上、感染経路は国内での屋外作業における創傷感染と推定される例が多い。過去5年間の届出状況は、年間1～5件で推移している。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4月	男	70歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難、反弓緊張	創傷感染	国内
6月	女	80歳代	筋肉のこわばり、開口障害、易興奮性、反弓緊張	農作業	国内
7月	男	80歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害	創傷感染	国内
10月	女	70歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害	創傷感染	国内

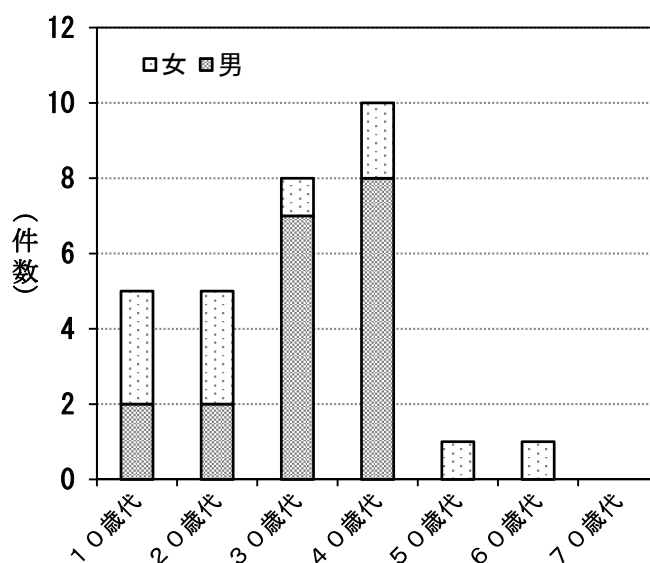
⑱ 風しん

風しんは首都圏や近畿地方を中心に大流行し、徳島県においても30件の届出があった。5年ぶりの患者報告であった。月別では2月から報告され始め、流行のピークを認めやすいといわれる春頃(4～6月)に集中した。男女別では、男性19例、女性11例と男性が女性の約2倍多く、年齢別では10歳代から40歳代が約9割を占め、全て国内において感染したと推定された。平成24年の感染症流行予測調査によると、20～40代の男性の16%、女性の4%が抗体を保持していないと報告されている。風しんは、抗体価の低い女性が妊娠中に罹患すれば、子供に難聴など重い障害(先天性風しん症候群：CRS)が起こる可能性や、風疹の流行があるとCRS発生が増加することが報告されている。男性を中心に、ワクチンによる予防啓発が重要と考えられた。

風しんの月別届出数



【年齢・症状別】



診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	男	10 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	不明	国内
3 月	男	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹、結膜充血	不明	国内
4 月	女	30 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹、関節痛・関節炎	飛沫感染	国内
4 月	女	20 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	不明	国内
4 月	男	20 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	不明	国内
4 月	女	20 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	飛沫感染	国内
4 月	女	20 歳代	発疹、発熱、関節痛・関節炎	不明	国内
4 月	女	50 歳代	発疹、発熱	飛沫感染	国内
5 月	女	60 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹、関節痛・関節炎	不明	国内
5 月	女	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	不明	国内
5 月	男	30 歳代	発疹	不明	国内
5 月	男	30 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹、関節痛・関節炎	不明	国内
5 月	男	40 歳代	発疹、リンパ節腫脹、関節痛・関節炎	接触感染	国内
5 月	男	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	飛沫感染	国内
5 月	男	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹、関節痛・関節炎	飛沫感染	国内
5 月	男	30 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	飛沫感染	国内
5 月	男	30 歳代	発疹、結膜充血	飛沫感染	国内
5 月	女	10 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	接触感染	国内
6 月	男	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	不明	国内
6 月	女	10 歳代	発疹、発熱	接触感染	国内
6 月	男	40 歳代	発疹	接触感染	国内
6 月	男	20 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	接触感染	国内
6 月	男	30 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	接触感染	国内
6 月	男	10 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	接触感染	国内
6 月	女	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	接触感染	国内
6 月	女	10 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	不明	国内
6 月	男	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	不明	国内
6 月	男	30 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	飛沫感染	国内
6 月	男	30 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	接触感染	国内
6 月	男	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹、関節痛・関節炎	不明	国内